

〔翻 訳〕

2008年カリフォルニア州における 大統領予備選挙をめぐる一考察 ——民主党とラティーノの動向を中心として——

賀 川 真 理

1. はじめに

2008年1月に開始された民主党（Democratic Party）の大統領予備選挙（Presidential Primary Election）は、例年にない混戦となった。知名度のあるニューヨーク州選出のクリントン（Hillary Clinton）上院議員に対して、イリノイ州選出のオバマ（Barack Obama）上院議員が初戦となるアイオワ州での黨員集会を制したのを皮切りに勢いを増し、最終的に民主党の大統領候補者指名は6月3日のモンタナおよびサウスダコタでの予備選が終わるまでもつれ込んだからである¹⁾。

こうした状況になることは、以下の4つの理由から、事前にある程度予測されていたと言えよう。第1に、候補者の外見上によるものである。アメリカ合衆国（以下、アメリカ）大統領史上、アフリカ系アメリカ人、および女性が大統領の座に就いたことがないため、史上初にける有権者の期待が高まったことが挙げられる²⁾。オバマ氏の「変化をもたらそう（Change We Can）」とのスローガンは、アフリカ系アメリカ人だけでなく、若者や時のブッシュ（George W. Bush）政権からの脱却を必要とする有権者にとっても魅力的に思われた。また、女性候補者の出現は、女性大統領に対する待望論から、多くの女性たちの関心をもたらした。

第2に、2008年の大統領予備選挙は、1952年以来、一般選挙の候補者に現職の大統領および

副大統領がいない稀な選挙であるだけでなく、党内の指名選挙においても現職の大統領および副大統領が候補者にいないという点では、1928年以來の選挙戦であったからである。こうした状況は、政権党ではない民主党にとってもチャンスが生じた形となった³⁾。

第3に、現職のブッシュ政権に対する有権者の強い反発が見られたことである。特に、大量破壊兵器に関して何ら確証がないまま開始されたイラク戦争の長期化に対する反感は、根強いものとなっていた。このことは、予備選挙における民主党への登録者を増加させる上で重要な要因となった⁴⁾。

そして第4に、民主党内で、ミシガン州とフロリダ州での予備選挙開催時期をめぐる制裁と混乱があり、5月末に結論が出るまで、両州における代議員の取り扱いについて不確定となっていたことが挙げられる。

従来、政党内での候補者指名は、東部での予備選がはじまってまもなく、あるいは少なくともカリフォルニア州やニューヨーク州といった人口の多い州をはじめとする多くの州が一同に予備選挙を実施するスーパー・チューズデーまでには実質的に終了していた。したがって、後述するように、2008年の予備選挙は日程が前倒しされたため、各党の予備選挙では以前にも増して早い時期に頭角を現す大統領候補者が現れるものと思われていた。しかし、実際にはこうした慣例は破られたのである。

本論文では、アメリカで最も人口の多いカリフォルニア州での2008年における民主党予備選挙の特色を分析し、同州での予備選挙を制した決定要因について検証することを目的としている。その際、今回の選挙におけるラティーノの政治参加がひとつの焦点となると考え、彼らの動向にも着目することとした。また、州政府の資料などに加えて、執筆者自らが実施したアンケートも資料として利用した⁵⁾。

2 カリフォルニア州における予備選挙と影響力

1) 2008年におけるカリフォルニア州での選挙

カリフォルニアでは、2008年に3回の選挙が実施された。第1回目は、2月5日の大統領予備選挙であり、同時に州レベルのイニシアティブとして投票に付されることになった住民提案(Propositions)も審議された。この段階では、投票者は事前に登録をしておいた政党の候補者のなかからひとりを選択し、その投票結果に応じて全国党大会で票を投じる党内の代議員が選出された。第2回目は、6月3日の予備選挙(Primary)であり、ここでは州議会上院議員および下院議員、市議会議員らが選出されたほか、州レベルの住民提案、および市町村レベルでの住民提案(Measures)が審議された。そして第3回目は、11月4日に行なわれた一般選挙(General Election)で、制度としては大統領選挙人を選出する間接選挙であるが、実質的には有権者が各政党の大統領と副大統領候補者の中から1組を選択し、アメリカの次期大統領が決定された。その際、連邦議会議員やその他の州および地方レベルの政治家、さらに州および市町村レベルでの住民提案も行なわれた。本稿では、第1回目の大統領予備選挙(以下、予備選挙)に焦点を当て、論じることとする。

カリフォルニアでの予備選挙に関する手続きは、州法によって詳細に定められている。たとえば、2007年9月10日までに州知事による大統領予備選挙に関する声明文が発行される(選挙

法第12000号)、選挙登録は1月22日で締め切られる(選挙法第2102号)、投票時間は午前7時より午後8時までである(選挙法第100, 12000, 14212号)、不在者投票は投票日の当日午後8時までに郡選挙事務所もしくは郡のいずれかの投票所にて受け取られなければならない(選挙法第3017, 3020号)、そして、選挙に関する公式記録は選挙後28日以内、すなわち2008年3月4日までに完了しなければならない(選挙法第15372, 15375号)、といった具合である⁶⁾。

アメリカでは、有権者は事前に選挙登録を行なう必要があるが、その際、自分が支持する政党を事前に表明するか、もしくは支持政党を明かさないことにするのかという点についても選択する⁷⁾。カリフォルニアでは、民主党とアメリカ独立党(American Independent Party)が政党の登録をしていない有権者の投票も認めていたが、共和党はこれを認めなかった。また、投票日の7日前までに郡選挙事務所に対して不在者投票の請求をすると、有権者は不在者投票を行なうことができた⁸⁾。

予備選挙後、全国から各州の代議員が集結し、投票が行なわれた。2008年の民主党全国大会は、8月25日から28日にかけて、コロラド州デンバーで開催され、共和党全国大会は9月1日から4日にかけて、ミネソタ州ミネアポリスで開催された。

2) 早期実施による存在感の誇示

各政党内における大統領候補者の実質的な指名は、近年予備選挙の早い段階で決定していた。多くの場合、スーパー・チューズデー以前にはほぼ候補者は一本化されていた。したがって、その後の予備選挙は実質的にはあまり関心もたれなかったと言うのが本音である。たとえば、2000年にはまだ半分以上の州が投票を行なう以前の3月7日に、史上最も早く候補者が決定し、前回2004年の予備選挙では、ケリー(John Kerry)候補がカリフォルニアでの投票を前に、すでに勝利を手中に収めていた⁹⁾。

では、カリフォルニアは予備選挙においてい

つ重要な役割を果たしたのであろうか。それは1972年に、マックガヴァン(George McGovern)が候補者指名に必要な票をカリフォルニア州の有権者が入れたときであり、共和党では1976年にレーガン(Ronald Reagan)候補が現職の強敵フォード(Gerald Ford)大統領を打ち負かすのに必要な票を投じたときであった。しかしそれ以来、アメリカで最も人口の多い州であることからその動向は注目されつつも、実質的には決定打を放つことができないでいた¹⁰⁾。

これに対して2008年の予備選挙では、少なくともカリフォルニア州自身が大きな役割を果たすべきだとする機運を高めていた。同州のシュワルツネッカー(Arnold Schwarzenegger)知事は、2008年の予備選挙におけるカリフォルニアの影響力を強めようと、予備選挙の日程を可能な限り早い2008年2月5日に設定することを決定した。それまでに同州で最も早かった予備選挙は2004年3月2日のことであり、第二次世界大戦後1992年までは6月に開催されていたが、今回の日程はカリフォルニア州史上最も早期の予備選挙となった¹¹⁾。

では、なぜカリフォルニアは予備選挙を2月に移動させる必要があったのであろうか。なぜならば、どの州も予備選挙における影響力を拡大しようと模索していたからであり、カリフォルニアでは2007年2月7日に、同州における大統領予備選挙の前倒しを提案した上院法案第113号(Senate Bill 113)の通過に関する声明が出された¹²⁾。その後約1ヶ月間にわたる検討を経て、シュワルツネッカー知事は同年3月15日、同法案に署名した。

知事は、この変更を政治改革の第一歩と捕らえ、大統領候補者がカリフォルニアにとって重要な政策論議を十分行なうことを期待した。すなわち知事は、「大統領候補者がカリフォルニアを他州での選挙費用にあてがうための寄付を集める場所として位置づけている状況を変えたい」と考え、「予備選挙を前倒しすることによって、政治家がカリフォルニアを単なる現金自動支払機として使用することができないよう

に」しようとする意図を持っていた¹³⁾。

カリフォルニア州が予備選挙を早めたことにより、他州も次々と日程を変更し、最終的には23の州とアメリカ領プエルトリコが予備選挙や党員集会を2月5日に移動した。こうしてスーパー・チューズデーは、単に日程が前倒しされただけではなく、これまでで最も多い州が一同に選挙を行なうこととなり、「メガ・チューズデー(Mega Tuesday)」あるいは「ツナミ・チューズデー(Tsunami Tuesday)」とも呼ばれるようになった。また、伝統的に予備選挙の初戦となるニューハンプシャーの日程も、史上最も早くなり、1968年には3月12日、1980年には2月17日、2000年には2月1日、2004年には1月27日であった投票日が、ついに2008年には元旦から7日目の1月8日となった¹⁴⁾。

3 カリフォルニア州における予備選挙以前の政治状況

1) スーパー・チューズデー以前における他州の結果

2007年1月にオバマ氏が大統領予備選挙への出馬を表明したものの、予備選挙が開始される以前は知名度や実力から、クリントン氏の圧倒的な優位が伝えられていた。ところが、ひとたび予備選挙が開始されると、事態は急変した。オバマ氏は、州人口の95パーセントが白人によって構成されているアイオワ州での党員集会で勝利を取めたのを皮切りに、クリントン氏と互角の勝負を展開しはじめたのである。

スーパー・チューズデーまでに、ミシガンとフロリダを含む6州で党員集会や予備選挙が行なわれた(表1参照)。ここに掲げられているのは、各候補者に投じられた投票結果の割合と、各候補者が獲得した代議員の数である。

2007年2月以降、民主党内には合計9人の大統領候補者が名乗りを上げていたが、スーパー・チューズデー以前にすでに6人が選挙戦から離脱していた。3番手につけていた前ノースカロライナ州選出上院議員エドワーズ(John

表1 スーパー・チューズデー以前の選挙結果 (投票結果：パーセント, 代議員数：人)

	投票日	オバマ候補	クリントン候補	エドワーズ候補	その他の候補者
アイオワ 党員集会	1月3日	37.6% 【16】	29.5% 【15】	29.8% 【14】	3.2%
ニューハンプシャ ー予備選挙	1月8日	36.5% 【9】	39.1% 【9】	16.9% 【4】	7.5%
ネヴァダ 党員集会	1月19日	45.1% 【13】	50.8% 【12】	3.7% 【0】	0.4%
サウスカロライナ 予備選挙	1月26日	55.4% 【25】	26.5% 【12】	17.6% 【8】	0.5%
獲得代議員数合計		【63】	【48】	【26】	
ミシガン 予備選挙*	1月15日	0%	54.6%	0%	45.4%**
フロリダ 予備選挙*	1月29日	32.9%	49.8%	14.4%	—

* これら2州の予備選挙は、当時、民主党全国委員会 (Democratic National Committee) による制裁を受け、選挙以前から同州に配分された代議員数は無効とすると言われていた。しかし、一部の候補者にとって不利な状況のまま投票は実施された。

** ミシガン州において、オバマ候補らは自ら同州の投票用紙に名前を掲載しないことに同意したが、クリントン候補はこれをしなかった。同州では、投票用紙に名前を書き込むことが認められていなかったため、同候補の支持者はやむなくその他を選択した。

【 】内は、選挙結果を受けて配分された代議員数。

出典：Iowa Democratic Caucuses, 2008 (http://en.wikipedia.org/wiki/Iowa_Democratic_caucuses,_2008#Results,_July_8,_2008); New Hampshire Democratic primary, 2008 (http://en.wikipedia.org/wiki/New_Hampshire_Democratic_primary,2008#Results,_July_8,_2008); Nevada Democratic Caucuses, 2008 (http://en.wikipedia.org/wiki/Nevada_Democratic_caucuses,_2008#Results,_July_8,2008); South Carolina Democratic primary, 2008 (http://en.wikipedia.org/wiki/South_Carolina_Democratic_primary,_2008#Results,_July_8,_2008); Democratic Party (United State) presidential primaries, 2008 ([http://en.wikipedia.org/wiki/Democratic_Party_\(United_States\)_presidential_primaries,_2008#Candidates_and_results,_June_3,_2008](http://en.wikipedia.org/wiki/Democratic_Party_(United_States)_presidential_primaries,_2008#Candidates_and_results,_June_3,_2008)).

Edwards) も、1月30日に選挙を見合わせることにした。これらの旧候補者のうち、エドワーズ氏を含む3人はオバマ支持を表明したが、クリントン支持に回る者はいなかった。

カリフォルニアでの予備選挙を前に、オバマ氏はアフリカ系アメリカ人、高学歴者、若者が、クリントン氏は女性、高齢者、ラティーノが支持するといった傾向がすでに出来上がっていた。

2) 予備選挙における民主党代議員とは

すでに述べたように、カリフォルニア州では2月5日の予備選挙開催が決定していた。同州には、人口の割合に応じて全国党大会に出席する441人の代議員があてがわれることになったが、このうち370人は選挙の結果により配分される代議員 (pledged delegates) であり、71人

は予備選挙にかかわりなく自分の意思で投票する代議員 (unpledged delegates, 一般には superdelegates と呼ばれることが多い。連邦議会議員や選挙により選出された役人、民主党全国委員会の会員らが名を連ねる) である。前者はさらに、選挙区ごとに分配される代議員 (district-level delegates) と、州全体の結果によって割り当てられる代議員 (at-large or PLEO delegates) とに分けられる¹⁵⁾。

ところで、カリフォルニアと同様に予備選挙の日程を早めたにもかかわらず、当初、フロリダとミシガン両州における代議員は全国党大会への出席を認められなかった。では、なぜそのような事態になったのであろうか。民主党全国委員会は2006年8月、同党の規約内規委員会 (Rules and Bylaws Committee) の提案を採用し、2008年2月5日以前に予備選挙もしくは党

大会を開催できるのは、アイオワ、ニューハンプシャー、ネヴァダ、サウスカロライナの4州に限るとの方針を採択した。カリフォルニアはこの規則に従ったが、フロリダとミシガンはこの規則に反し、2月5日以前に予備選挙の日程を定めた。そのため、一騎打ちが続く中で両州における代議員の扱いが注目されたが、この混乱が長引いたため、民主党への信頼を損ないかねない事態にまで発展した¹⁶⁾。

実際には、代議員は男女の比率を対等にし、またアフーマティヴ・アクションの目標を満たすためにエスニック・バランスを考慮して選出されることになっていた¹⁷⁾。カリフォルニアでは、2008年4月13日に選挙の結果により配分される代議員の選考があり、例年になく大勢の有権者が名乗りを上げた¹⁸⁾。

3) その他の特徴

民主党内では、2人の候補者ともに勝利宣言を行なうといった状況が続いたため、大票田であるカリフォルニア州における有権者の動向に注目が集まった。スーパー・チューズデーに向けて、両候補者とも全力で選挙運動に臨んだ。

この時期に、オバマ氏はシュライヴァー (Maria Shriver) カリフォルニア州知事夫人からの支持を得ることになる。ケネディ家からは、すでにケネディ (John F. Kennedy) 元大統領の娘でシュライヴァー氏のいとこに当たるキャロライン・ケネディ (Caroline Kennedy) と同大統領の弟であるテッド・ケネディ (Ted [Edward] Kennedy) マサチューセッツ州選出上院議員¹⁹⁾ が、サウスカロライナでの予備選挙における勝利後にオバマ氏への支持を表明していた。シュライヴァー氏は、共和党州知事である夫がアリゾナ州選出上院議員マケイン (John McCain) 候補を支持するなか、2月3日に開催されたオバマ夫人 (Michelle Obama) とキャロライン・ケネディ氏が参加するカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (University of California at Los Angeles, 以下 UCLA) での集会に突如として現れ、オバマ氏支持を表明し

た²⁰⁾。しかし、同集会にオバマ氏本人は姿を現わさなかった。

一方のクリントン氏は、2月2日にカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校における集会を開催し、多くの聴衆を集めた。その傍ら、夫であるクリントン (Bill [William] Clinton) 元大統領は、2月3日、ロサンゼルスにあるアフリカ系アメリカ人の教会を回り、オバマ氏の支持基盤にも触手を伸ばしていた²¹⁾。このとき既にクリントン氏は、夫の強力な支援はもちろんのこと、アメリカ看護協会 (American nurses Association)、モリナ (Gloria Molina) ロサンゼルス郡政執行官、俳優のニコルソン (Jack Nicholson) らからの支持を取り付けていた²²⁾。

オバマ氏とクリントン氏は、1月31日にロサンゼルスでの討論会に臨んだが、その際のテーマは不法移民への運転免許の発給、ヘルスケア、税金、外交政策、そしてイラク戦争であった。両者の違いが際立ったのは、不法移民への運転免許をめぐる考え方についてである。クリントン氏は、このことを実現するにはまず彼らが英語を学び、罰金や税金を支払った上で、市民権獲得の途に就いたあとにのみ考慮されるべきであると考えた。一方オバマ氏は、アフリカ系アメリカ人の経済問題を移民のせいにするべきではないと主張し、法的地位にかかわらず、不法移民への運転免許の発給を支持する考えを示した。ヘルスケアについても、クリントン氏が税金控除を検討すべきだと述べたのに対し、オバマ氏は強制的な加入を義務付けるのではなく、まずは保険代金を減額すべきだと強調した²³⁾。スーパー・チューズデーを前にカリフォルニアで行なわれた両候補者による討論会では、全体的に対立を避け、ホワイトハウスを民主党が支配するとどのように変化が生じるのかについて、有権者にアピールするものとなった²⁴⁾。

さて、2008年のカリフォルニア州における民主党予備選挙において、最も大きな特徴は、ラティーノの政治参加にあると言えよう。実際

に、各党の大統領候補者たちはラティーノ票を獲得しようとそれぞれに工夫を凝らした。従来、ラティーノのなかには市民ではなく、投票権がない者がかなりいた。1998年にはアメリカに住むラティーノのうち、18歳以上になる者は2030万人に達していたが、このうちアメリカの市民権を持つ者は1240万人ほどであった。さらにこれらの人々のなかで、同年の選挙に投票した者は約400万人と推定され、市民権を有するラティーノのうちの32.8パーセントが投票したに過ぎなかった。2000年になると、57パーセントの市民権のあるラティーノが有権者登録を行なったが、これは主要なエスニック・グループのなかで2番目に低い割合であり、実際に投票したのは約590万人で、投票者全体のわずか5パーセントに過ぎなかった。とりわけカリフォルニアやアメリカ全体におけるラティーノのうち最大のシェアを占めるメキシコ系アメリカ人は、他のキューバ系およびプエルトリコ系アメリカ人と比べ、投票に参加する割合がかなり低いとされてきた。しかし、1990年代半ばからの住民提案187, 209, そして227号における反移民勢力の増大に対して立ち上がるべく、メキシコ人をはじめその他のラティーノのコミュニティでは、市民権を獲得して投票に向かうために、機会があるごとにあらゆる点で多くの努力を払ってきた²⁵⁾。今回の選挙では、その成果が現れることが期待されていたのである。

カリフォルニアでは、ラティーノ票の獲得においてオバマ氏がクリントン氏に水をあけられているとの報道が伝えられていた。もちろん、オバマ氏は手をこまねいていただけではなく、むしろラティーノ票を得ることを最大の課題のひとつとして選挙活動を展開した。たとえば、ロサンゼルスにある選挙本部に署名をする用紙を置き、「スペイン語を話す人々に対する支援を必要としている」有権者が署名をできるようにしたところ、それらの用紙には多くの署名が集まったとされる。またラティーノ対策として、各選挙区に合計6000人のリーダーを派遣したほか、1500人の訓練を受けたボランティアが

223のチームに分かれて派遣されたと言う。彼らの活動は、スペイン語放送のテレビやラジオの番組に出演したり、ラティーノの世帯に何万回にも及んで電話をかけ、オバマ支持を求めたりした²⁶⁾。オバマ氏とクリントン氏はともに、スペイン語放送のテレビであるユニヴィジョン(Univision)で流す広告費として、同州における予備選挙の1週間前に30万ドルを費やしていた²⁷⁾。

このほかにも、オバマ氏はロサンゼルス市のラティーノ・コミュニティで最も良く読まれているスペイン語の日刊紙『ラ・オピニオン(La Opinión)』に全面広告を掲載した²⁸⁾。彼はこの広告のなかでケネディー家から支援を受けていることを前面に出し、キャロライン・ケネディーおよびテッド・ケネディー上院議員との写真を使用した。また、『ラ・オピニオン』は、有権者に「投票は、非常に容易である²⁹⁾」として投票を促したほか、同紙自らもオバマ支持を表明した。その理由として同紙は、「オバマ氏はワシントンに支配する厳しい状況を変化させ、今わが国にとって必要な行動をとるうえでの資質をもちあわせている。クリントン上院議員の力量と経験を疑うものは誰もいないが、これらの資質は我が国が活気を取り戻すには十分ではない。多様な文化に対応する感覚と高貴の生まれでないオバマ氏ならば、移民への待遇についても十分な説得力がある。彼は本当に夢のような変化をもたらす候補者として、最高の選択肢である³⁰⁾」と絶賛した。

しかし、クリントン氏も気を抜くことをせず、オバマ氏の行く手を拒んだ。クリントン氏は組織力を駆使し、カリフォルニア州全域のラティーノの女性に対して65万回(このうちラティーノが多い第37地区のみで1万2000回)、そのほかと合わせて約200万回の電話作戦を展開したが、この数はオバマ陣営の約2倍に相当した。クリントン氏は選挙戦略通り、ラティーノやアフリカ系アメリカ人、白人、そしてアジア系の女性に大きな影響力を持つことができた。彼らは以前から、まさしくこれらの人々に焦点

を絞って対策を講じてきており、長年にわたる周知な準備が行なわれてきたことは明らかであった³¹⁾。

以上のように、民主党の予備選挙はスーパー・チューズデーを前にして、盛り上がりを見せていた。少なくとも政治的な見地からは、カリフォルニアが大きな役割を果たすものと期待されていた。

4) 事前の世論調査結果

ある世論調査によれば、カリフォルニアにおける有権者の支持動向は、2007年3月からの10ヶ月間に、表2のように推移した。この表から、一時期をのぞき、予備選挙が近づくとつれてオバマ氏への支持が増加し、予備選挙直前にはクリントン氏との差がわずか2パーセントにまで迫ったことがわかる。しかし同時に、オバマ氏がクリントン氏をリードすることは1度もなく、また選挙直前においても態度を保留する者が約2割いたことにも着目する必要がある。

ところで、両候補者に対する別の世論調査ではどのような結果が出ていたのだろうか。2008年1月25日以降に行なわれた表2のフィールド社を含む15の世論調査では、11の調査がクリントン氏、そして4つの調査がオバマ氏のリードを示した。オバマ氏リードとの結果を出した調査では、ひとつの調査を除き（2月4日に行なわれロイター、Cスパンおよびゾグビー[Zogby]による追跡調査では13パーセント）、両者の差は小幅（平均1.6パーセント）であったのに対し、クリントン氏リードとの結果を出

した調査では、その差は平均2.17パーセントとかなりの幅がある点の特徴である。さらに、予備選挙から卑近な調査であるにもかかわらず、15の調査のうち7つにおいて「態度未定」者が14パーセント以上いたことも付言しておきたい（2月2日にサフォーク大学[Suffolk University]によって行なわれた調査では、その割合は22パーセントであった）³²⁾。

表3は、2008年のカリフォルニアにおける民主党大統領予備選挙に投票を予定する有権者の傾向を示したものである。同表から、有権者の割合では女性が多く、数は少ないものの無党派層の人々にはオバマ氏支持者が多いこと、64歳以下の有権者、高学歴者、および年収8万ドル以上の有権者の間ではオバマ氏支持が上回っていること、さらに有権者の6割は白人が占めるものの、これに次いでラティーノが2割を占めていることがわかる。カリフォルニアのラティーノ人口は35.9パーセントであるが、過去の実績と照らして考えると、今回のカリフォルニアにおけるラティーノの投票予定者の割合が20パーセントに達したことは、既に大きな進歩であったと言えよう³³⁾。

4 投票日の動向

1) 投票所での投票

さて、2008年2月5日の予備選挙当日、有権者はどのように投票を行なったのであろうか。ここでは、執筆者がロサンジェルス(Los Angeles)市にあるUCLA近くの投票所で調査

表2 カリフォルニア州民主党大統領予備選挙の投票予定者における投票傾向（単位：パーセント）

	2008年 1月下旬	2008年 1月中旬	2007年 12月	2007年 10月	2007年 8月	2007年 3月
ヒラリー・クリントン	36	39	36	45	49	41
バラク・オバマ	34	27	22	20	19	28
その他	12	14	22	21	20	22
態度未定	18	20	20	14	12	9

この調査は、2008年1月25日から2月1日にかけて、民主党予備選挙への投票予定者511人に対する無作為抽出法に基づき、英語とスペイン語での電話による調査が行なわれた。サンプリングの最大誤差は、±4.5パーセント。

出典：The Field Poll, Release #2264, February 3, 2008, pp.2, 10.

表3 カリフォルニアの民主党大統領予備選挙における投票予定者の傾向（単位：パーセント）

	クリントン	オバマ	その他	態度未定
州全体	36	34	12	18
政党 (.87) 民主党 (.13) 無党派*	37 32	31 54	13 3	19 11
地方 (.76) 沿岸部 (.24) 内陸部	36 37	36 28	10 16	18 19
地域 (.29) ロサンジェルス郡 (.26) その他の南カリフォルニア (.26) サンフランシスコ湾岸地域 (.19) その他の北カリフォルニア	42 36 31 37	34 34 41 27	6 11 14 17	18 19 14 19
性別 (.44) 男性 (.56) 女性	31 40	44 27	11 13	14 20
人種 / エスニシティ (.59) ヒスパニック以外の白人 (.20) ラティーノ (.12) アフリカ系アメリカ人* (.09) アジア系 / その他*	35 52 19 32	35 19 55 36	13 9 7 14	17 20 19 18
年齢 (.13) 18-29* (.36) 30-49 (.30) 50-64 (.21) 65歳以上	31 38 34 40	42 39 37 18	** 10 14 20	27 13 15 22
政治的イデオロギー (.38) リベラル (.45) 中道 (.17) 保守*	31 39 43	42 33 22	11 9 20	16 19 15
教育 (.23) 高校卒業以下 (.28) カレッジ / 職業学校 (.23) 大学卒業 (.25) 大学院卒業以上	44 37 35 31	19 38 39 42	15 12 8 11	22 13 18 16
世帯収入 (.27) 40,000ドル未満 (.31) 40,000ドル -79,999ドル (.42) 80,000ドル以上	36 43 32	25 33 45	12 8 12	27 16 11
投票方法 (.57) 投票所での投票 (.43) 不在者投票	40 31	36 32	6 20	18 17

* サンプル数は少ない。 ** 1パーセントの2分の1以下。

この世論調査は、511人の投票予定者に対する無作為抽出法で行なわれたもの。

出典：The Field Poll, Release #2264, February 3, 2008, p.4.



写真1. 投票所を示す多言語による看板



写真4. 政党ごとに分かれた投票ブースと投票装置にセットされた投票用紙

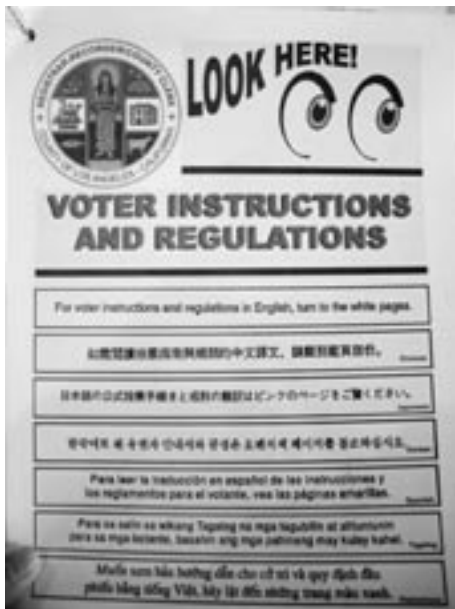


写真2. 投票ブースに備えつけられた多言語による指示書



写真5. 実際の投票模様



写真3. 投票箱と投票所で働く人々

出典：写真1-5はいずれも2008年2月5日、カリフォルニア州ロサンジェルス郡ロサンジェルス市ランドフェアにある投票所にて執筆者が撮影したもの。

を行なった際の手順を示すものとする。まず投票開始1時間半前から、投票所で働く人々によって、投票所の最終セッティングおよび手続きの確認が行なわれる。午前7時に投票が開始されると、有権者は、自宅に送られてきた投票用パンフレットを提示して投票所の確認を行なうとともに、住所と姓を告げる。カリフォルニアでは、投票者が身分証明書を提示する必要はない³⁴⁾。その後、有権者は、事前に登録しておいた特定の政党の投票用紙を与えられ、投票の仕方についての説明を受けたあと、政党ごとに区分けされたブースへ向かい、備え付けの特殊なペンで自分が選択する候補者および住民提案への賛否をマークする。記入後、投票用紙を投票箱（機械）に吸い込ませ、投票は終了する。投票者は、有権者としての地位が不確定の場合のみ、投票用紙をピンク色の封筒に入れ、担当者に手渡す。こうしたプロセスを経た投票者は、「私は投票をしました」との文字が書かれたシールを渡され、投票所を去る。

選挙当日、民主党候補者への投票用紙には、2月以前に選挙戦を離脱した候補者名が印刷されたままになっていた。また、事前に投票する政党名を明かさないと登録した投票者で、民主党の候補者に投票する場合には、そのことを示す場所に別に印をつける必要があった。これを忘れた場合、投票は無効とされた。

執筆者が取材した投票所では、特別なトラブルはなかったが、同じ通りの向かい側30メートル以内の距離にある投票所と間違えて来た投票者が何人かいた。ひとつの投票所で、異なる選挙区の投票者が投票を行なう仕組みになっていた。また、通常と投票所が違ったとの声も聞かれた。こうした変更は、おそらく有権者の増加によって起きたものと思われる。

2) 選挙結果とその背景

i スーパー・チューズデーの結果

2008年2月5日には、全米23の州とプエルトリコにおいて予備選挙もしくは党大会が開催された。このうち、クリントン氏は主として人口

の多いカリフォルニア、ニューヨーク、ニュージャージーなど10の州とプエルトリコで勝利し、オバマ氏は、アラスカ、デラウェアといった人口の少ない州と彼自身の選挙地盤のあるイリノイなど、13の州で勝利を取めた。この日だけで各州に割り当てられた民主党の代議員の42パーセントが決定した。選挙結果を受け、クリントン氏はこのときまでに1045人の代議員を、オバマ氏は960人の代議員を獲得したが、両候補とも、その時点で指名獲得に必要であった2025人の代議員数には達せず、予備選挙最大の山場を迎えたあとでさえ、両者とも指名獲得をあきらめなかった³⁵⁾。

カリフォルニアでは、予備選挙の翌日、出口調査による投票結果が公開された（表4）。この表から、民主党投票者について以下の5つの傾向が読み取れる。第1に、投票行動は政党への帰属意識によって異なっている。今回の選挙で民主党に投票した有権者のうち、約2割が無党派層であったが、民主党員としての帰属意識を持っている者でクリントン氏に投票した有権者とオバマ氏に票を投じた有権者との比は2対1の割合であったのに対し、無党派層ではオバマ氏に投票した有権者とクリントン氏に票を入れた有権者との比は2対1の割合であった。

第2に、4分の1の有権者が、選挙前3日以内に最終的に投票する候補者を決定している。

第3に、女性有権者が男性有権者を54パーセント対46パーセントで上回っており、多数の女性が年齢や学歴にかかわらずクリントン氏を支援している。年齢が45歳以上、学歴が「カレッジ未満」である女性は、クリントン氏への支持率がさらに高くなっている。この傾向は、男性のクリントン氏支持者に関しても当てはまる。

第4に、年収に関して投票者の40パーセントが7万5000ドル以上である。これはカリフォルニア全体の縮図とはなっておらず、年収の低い者の政治参加が十分に進んでいないことを示す。年収5万ドル以下の有権者によるクリントン氏への支持が高いことは、注目に値する。

最後に、全投票者中、白人がわずか半数を占

表4 出口調査によるカリフォルニアの有権者の投票動向

選挙民の割合		項目	クリントン	オバマ	マケイン	ロムニー	ハッカビー
民主党	共和党	政党への帰属*					
80	3	民主党員	57	38	—	—	
18	19	無党派層	34	58	49	26	9
3	79	共和黨員	—	—	42	37	12
		政治的イデオロギー					
50	12	リベラル	50	45	57	20	7
37	27	中道	55	38	54	22	10
13	61	保守	50	42	35	43	14
		投票者を決めた時期					
14	13	今日	51	43	44	27	18
12	14	3日以内	44	52	42	36	12
73	73	それ以前	54	41	42	37	11
		性別					
46	53	男性	45	48	45	33	11
54	47	女性	59	36	40	36	13
		女性					
55**	41	45歳未満	58	40	35	32	18
53**	49	45歳以上	59	33	41	36	10
53	60	カレッジ未満	63	31	40	36	13
47	40	カレッジ以上	53	41	38	35	12
		人種, エスニック・グループ					
52	76	白人	46	45	42	38	11
7	2	アフリカ系アメリカ人	18	78	—	—	—
30	13	ラティーノ	67	32	39	27	16
8	6	アジア系アメリカ人	71	25	66	8	10
		年齢					
16	10	18-29	49	49	35	33	20
25	20	30-44	49	48	42	30	15
40	42	45-64	54	38	44	35	10
19	28	65歳以上	51	34	45	35	10
		宗教					
33	59	プロテスタントもしくは はカトリック教徒以外	49	41	39	38	16
34	25	カトリック教徒	66	30	46	29	8
5	2	ユダヤ教徒	47	49	—	—	—
		収入					
19	12	30,000ドル未満	58	37	45	26	8
18	16	30,000-49,999ドル	60	33	41	30	15
20	21	50,000-74,999ドル	48	41	47	35	10

40	52	75,000ドル以上	47	49	41	38	13
		学歴					
53	50	カレッジ未満	57	36	46	32	12
47	50	カレッジ以上	46	48	40	36	12

*政党への登録状況ではなく、投票者自身の帰属意識。

**『ロサンジェルス・タイムズ』紙に掲載された数値（合計が100パーセントを超過している）。

一結果が出なかったもの、もしくはあまりにも少人数であったもの。

全ての項目を提示していない場合、合計が100パーセントにならないものがある。大統領予備選挙において民主党に投票した1908人と共和党に投じた1105人の有権者に対するサンプル調査。不在者投票を行なった約300人に対する電話でのインタビューに加え、40箇所の投票所で行なわれたインタビューに基づく。

出典：National Election Pool Exit Poll., quoted in *The Los Angeles Times*, February 7, 2008, A17.

めるだけとなった一方で、ラティーノが30パーセントという著しい進歩を遂げている。そして、彼らはクリントン氏とオバマ氏にそれぞれ2対1の割合（カトリック教徒の割合とほぼ同じパターン）で投票した。白人は、成人人口の約半数（48パーセント）を占めているが、2008年の予備選挙以前はカリフォルニア州の投票予定者の72パーセントが白人であったのに対し、ラティーノは成人人口の31パーセントを占めていながら、投票予定者のわずかに14パーセントに過ぎなかった。ちなみにラティーノの投票予定者の3人に2人は南カリフォルニアに住んでいて、そのうちの40パーセントがロサンジェルス郡に住んでいた³⁶⁾。

カリフォルニアでの選挙結果に応じて、クリントン氏は204人、オバマ氏は166人の代議員を

獲得した。のちにボーエン（Debra Bowen）州務長官は、表5にあるように最終的な民主党の投票結果を公表した³⁷⁾（この結果には、不在者投票による投票も含まれている）。

ii) Latino votes

以前に言及したように、今回の予備選挙ではラティーノ票に注目が集まった。では、2008年以前の選挙との大きな違いはどこにあり、また彼らにとっての争点は何であったのだろうか。

カリフォルニア大学アーヴァイン校のデシピオ（Luis DeSipio）教授によれば、2008年の選挙における新たな側面として、白人がラティーノにとっての伝統的な課題の重要性を認識したことにあるとされる。カリフォルニアに住むラティーノにとっての重要な問題とは、経済（54パーセント）、ヘルスケア（22パーセント）、そ

表5 カリフォルニア州における民主党予備選挙の最終結果

順位	候補者氏名	票数	得票割合 (%)
1	Hillary Clinton	2,524,789	51.8
2	Barack Obama	2,093,318	42.9
3	John Edwards	188,634	3.9
4	Dennis Kucinich	23,077	0.5
5	Bill Richardson	19,367	0.4
6	Joe Biden	17,748	0.3
7	Mike Gravel	7,870	0.1
8	Chris Dodd	7,807	0.1

2008年3月4日報告、2万3109選挙区中2万3109選挙区の結果。

出典：The final statewide results on the Democratic presidential primary in the state of California (<http://primary2008.sos.ca.gov>Returns/pres/dem/59.htm>, June 20, 2008).

してイラク戦争であり、同教授は特にイラク戦争においてラティーノが多く死傷者を出し、また軍役に就く者が多くいる点を強調した³⁸⁾。ブッシュ政権がもたらした現状を変える必要性をラティーノが感じていたことが、民主党への帰属意識を増加させることにつながったと考えられる³⁹⁾。政党への帰属意識に関するある調査では、カリフォルニアの民主党におけるラティーノの割合は23パーセントであり、このうち実際に有権者登録を行なったのは18パーセントを占めるに過ぎなかった。したがって、今回の民主党予備選挙でラティーノがいかに貢献したかがわかる⁴⁰⁾。

では、カリフォルニア以外のラティーノ票はどのように動いたのであろうか。既に指摘したように、カリフォルニアの人口に占めるラティーノの割合は、35.9パーセントであるが、これはニューメキシコ(44.7パーセント)を除いて、コロラド(19.5パーセント)、およびニューヨーク(16.3パーセント)と比べてかなり高いことがわかる。クリントン氏は、選挙地盤であるニューヨークをはじめ、ニュージャージー、マサチューセッツ、そしてカリフォルニアといったところでラティーノ票を獲得した。また、アリゾナやニューメキシコでは、クリントン氏がそれぞれ約60パーセントを得たのに対し、オバマ氏はそれぞれ34パーセント、37パーセントといった傾向を示した。オバマ氏のお膝元であるイリノイ州では、民主党票のおよそ15パーセントがラティーノ票であったが、その中でオバマ氏は48パーセント対51パーセントと善戦したものの、クリントン氏を抜くことはできなかった。オバマ氏はコネチカットのラティーノ票でも粘りを見せたが、やはりクリントン氏に敗北した⁴¹⁾。

予備選挙における一般的なオバマ氏への人気の高さに比べ、彼がラティーノ票においてはどの州でも過半数を上回ることができなかったという事実に関しては、注目に値する。父親がアフリカ系で母親が白人であるオバマ氏は、サウスカロライナでの勝利宣言の中で、「アフリカ

系アメリカ人が白人の候補者を、白人がアフリカ系アメリカ人の候補者を支援するはずがない、あるいはアフリカ系アメリカ人とラティーノが協力するはずがないといった憶測があるが、今晚我々はそれが我々の信じるアメリカでないと言うことができる」と述べた⁴²⁾。しかし、現実にはオバマ氏を取り巻くラティーノ票の行方を見る限り、ラティーノとアフリカ系アメリカ人との間の溝は依然として深いと言わざるを得ない。

3) 選挙資金とカリフォルニア

候補者にとって、選挙に欠かせないものは資金である。2004年に施行された選挙法の改正により、候補者への直接的な貢献(ハード・マネー)は1人当たり2000ドルに改定された⁴³⁾。この金額は、その後のインフレに応じて変動されることになったが、候補者たちは党に寄付されるソフトマネー以外に、この制限内で多くの資金を調達する必要がある。したがって、たとえ少額であってもいかに多くの人々から寄付を募るかが勝負となる。

ところで、なぜ選挙運動において多額の資金が必要なのであろうか。なぜならばアメリカの大統領選挙では、その領土内を東奔西走しなければならないからである。ある調査によれば、オバマ氏はスーパーボウルでの30秒間の広告に25万ドル、2007年10月から12月にかけての印刷代に70万9578ドル、同時期の郵便料金に100万ドル、同時期のダンキン・ドーナツへの支払いに353ドル、そして同時期の旅行および宿泊費用に570万ドルを支払った。同様にクリントン氏は、2008年1月23日以降、カリフォルニア、アリゾナ、その他6州で展開した広告代金に160万ドル以上を投入したほか、シカゴにあるステーキハウスでのイベントに1万8552ドル、2007年10月から12月にかけての印刷代に130万ドル、同時期の郵便料金に33万2001ドル、そして同時期の旅行および宿泊費用に410万ドルを支払った⁴⁴⁾。これらの数字から、候補者一行の旅行および宿泊費用にかかる経費がかなりかさ

んでいることがわかる。

カリフォルニアの予備選挙の前に、オバマ氏は2008年1月だけで、3200万ドルを調達したが、この金額はクリントン氏の2倍以上に達した。一方クリントン氏は、2007年11月から2008年1月までの3ヶ月間に、2700万ドルを集めた。2007年初頭からの9ヶ月間に共和党のマケイン氏が3200万ドルを集めた際、クリントン氏は9100万ドル、オバマ氏は8000万ドルの献金を得たが、これらの金額を比較してもわかるように、民主党候補者に対する今回の選挙への期待度が共和党のそれを上回っていたことがうかがえる⁴⁵⁾。

カリフォルニアにおいて、オバマ氏はクリントン氏より多くの献金を獲得していた。2008年5月31日までに同州でオバマ氏が195万4317ドルを得たのに対し、クリントン氏は145万1667ドルを集めた。しかし、同州でオバマ氏が7月前半までに受け取った献金は、件数的にはクリントン氏を上回っていたものの、金額の合計はクリントン氏よりも少なかった。なぜなら、政治活動委員会 (Political Action Committees) から、クリントン氏はオバマ氏と比べ、570倍近くの金額 (1061万6380ドル対1万8637ドル) を得たからであった⁴⁶⁾。表6は、カリフォルニアがいかに大統領候補者への寄付において貢献したのかを示したものである。

ところでカリフォルニアの予備選挙翌日にあ

たる2008年2月6日、クリントン氏は突如1月における選挙の負債が500万ドルに膨れ上がり、選挙幹部の一部が無給で働いていることを公表した。同日、オバマ氏はスーパー・チューズデーの投票が終了して以降、新たに520万ドルの献金を得たと発表した。メディアは、クリントン氏が自分の負債を明かした目的について、両者の溝を縮めようと企てたものであると報じた⁴⁷⁾。すなわち、クリントン氏はこのことを利用して、より多くの寄付を募る戦略に出たのであった。この時期、オバマ氏はホームページやブログを通じて、有権者に同氏の名前入りTシャツや、野球帽、シール、「支援セット一式」に至るオリジナル・グッズを販売するなど、積極的な策に出ている。このように、選挙資金を獲得する上で、今回の選挙では以前にも増してインターネットが果たした役割は大きなものとなっていた。

5. カリフォルニアにおける草の根の意見

これまでは、カリフォルニア州の民主党大統領予備選挙について、同州政府やメディアによるデータや資料および一般の文献に依存して論じてきたが、今度はカリフォルニアで生活する一般の人々の意見をもとに、今回の選挙を分析することとする。

表6 個人から民主党候補者への献金額上位5州

順位	ヒラリー・クリントン				バラク・オバマ			
	州名	件数	献金総額 (ドル)	割合 (%)	州名	件数	献金総額 (ドル)	割合 (%)
1	ニューヨーク	16,751	23,414,276	24.65	カリフォルニア	15,147	14,412,132	19.91
2	カリフォルニア	14,895	18,527,362	19.51	イリノイ	12,275	10,676,121	14.75
3	フロリダ	4,666	6,109,700	6.43	ニューヨーク	9,122	9,361,497	12.94
4	ニュージャージー	3,474	4,791,033	5.04	マサチューセッツ	4,047	3,596,896	4.97
5	ワシントン DC	3,969	4,783,821	5.04	フロリダ	4,122	3,383,804	4.68

出典：Hillary Diane Rodham Clinton Biography and Political Campaign Contributions (http://www.campaignmoney.com/biography/barack_obama.asp?cycle=08, July 3, 2008); Barack Hussein Obama Biography and Political Campaign Contributions (http://www.campaignmoney.com/biography/hillary_clinton.asp?cycle=08, July 3, 2008).

執筆者は、2008年2月に独自のアンケートを行なった⁴⁸⁾。これに応じて頂いた13人の民主党への投票予定者のうち、8人がオバマ氏を支持し、4人がクリントン氏を支持し、残りの1人は態度を保留していた。クリントン氏への支持者は全員女性で、年齢は50歳以上の方々であった。

オバマ氏を支持する理由は、実に多岐にわたっていた。ある人は、「彼は国家をひとつにするとの約束をしている。若者を政治過程に導いた。連邦議会の両院とも仕事ができる」と絶賛した。またある人物は、「ワシントン政治からより離れている」、「庶民からたたき上げられてきた人物である」、「クリントン氏より親しみがある」などと説明したほか、「変化」と言う言葉を用いて、「オバマ氏ならば変革できる」、「変化することで前進できる」、「庶民の感覚からの社会的、経済的变化を期待する」といった意見があった。

一方、クリントン氏の支持者は候補者の性格や経験を掲げるものが多かった。すなわち、「賢明で、常識があり、経験豊かで、実践力がある」、「女性による政治が変化をもたらす。女性として、フェミニストとして、彼女への信頼が厚い」、「彼女ならば闘いぬげ、大統領としての仕事により熟知している」、「頭の切れが良く、公正な大統領になれる」といった具合である。これらの意見から、同氏の知名度の高さが窺い知れる。

争点に関して、執筆者は事前にその他の項目を含む6つの事項を掲げ、これらに順位をつけ

てもらった上で、その理由を尋ねた(表7)。

その結果、意外なことにカリフォルニアにとって重要なこととして、教育、ヘルスケア、経済が上位に上がり、移民に関しては環境への配慮とさほど変わらない順位となった。ある人は移民について、「まったく心配していない」と付言した。その他の項目を選んだ人のなかで、イラク戦争を上位1位と2位に挙げた人がそれぞれ1人ずつあり、そのほかに住宅問題(2人)、貧困、公共の交通手段、人種・ジェンダー・階級の公正さ、そしてよく考え行動に移すことと言う回答が1人ずつあった。

教育を最優先課題に挙げた人の意見としては、「これを掲げることによって指導者たちはその他の問題を解決することができる。経済とヘルスケアは、今後の人生に大きくのしかかってくる」、「長期的な視野が必要である。よい教育を施すことは、現在取り残されている人々や次世代の人々全てに適切な生活を取り戻す機会を提供する上での鍵となる」、「社会にとって最も重要な2つのことは、教育とヘルスケアである。その他すべてのことは、これら2つの問題に真剣に取り組めば自然とよくなる」、というものであった。ヘルスケアを1位に挙げた人は、これが「全てに影響を及ぼす。教育は、変化を生む最も重要な手段である」とし、また経済を最優先課題にした人は、「よりよい教育機会とヘルスケアを提供するためには、経済が健全でなければならない。これまであまりにも多くの納税者の資金が不法移民を支援するために使われてきたので、移民は統制される必要があ

表7 カリフォルニアの人々にとって重要な争点の順位付け

争点	順位 (ポイント)						合計ポイント	合計人数	争点としての得点
	1 (6)	2 (5)	3 (4)	4 (3)	5 (2)	6 (1)			
教育	5	4	0	2	0	0	56	11	5.09
ヘルスケア	2	6	3	0	1	0	56	12	4.67
経済	3	1	4	2	1	1	48	12	4.00
移民	1	0	3	3	3	2	35	12	2.92
環境への配慮	1	0	0	5	5	0	31	11	2.82
その他	1	1	1	0	1	4	21	8	2.63

る」と強調した。さらに、その他としてイラク戦争を2位に掲げた人は、「全ての市民にとって、経済を健全にする必要がある。そうすれば戦後、イラクからの帰還兵が仕事を見つけることができるからである」と先を見通した回答を寄せた。以上の回答から、執筆者が掲げた5項目は、互いに関連のあることがわかった。

アンケートの最後に、もし自分の支援する候補者が民主党の代表として指名されなかった場合に、同党の他の候補者を支援するかどうかを尋ねた。13人中8人が「支援する」、3人は「支援しない」、2人が「わからない」と答えた。「支援する」と答えた人は、イデオロギーや政党の綱領、民主党の候補者であることに共感を示し、どちらの候補者でもかまわないとした。このほかにも、「身動きの取れなくなった共和党からの転換、戦争からの脱却、経済の改善が必要である」、「候補者の年齢が懸念される」との回答があった。なかでも興味深いものとして、むしろ別の候補者のほうがよいとの回答を得た。クリントン氏を支持した人物は、「実際のところオバマ氏が指名を勝ち取れば、そのほうが望ましいと考える。というのも、彼はマケイン氏にとって強敵となり得るからであり、彼が本当の意味で偉大になるチャンスである。クリントン氏も適任であろうが、偉大になるという感じではない」と回答した。一方、オバマ氏の支持者の1人は、「私はヒラリーに好意を持っている。彼女は私がよいと思う政策や価値観を追求すると考える」と賞賛した。

「支援しない」と答えたオバマ氏の支持者の女性は、クリントン氏に決定した場合には投票しないと回答し、他の2人（各候補の支持者それぞれ1人ずつ）は、候補者が代表となっている政党にとらわれず、最適な人物に投票するとした。後者のうちの1人は、「民主党が勝つことを期待する。なぜなら次期大統領はおそらく2人の最高裁判事を任命することになるからであり、共和党は既に多くの判事を任命してきたからである」と付け加えた。「わからない」としたオバマ氏を支持する有権者は、「マケイン

氏が選ぶ相手（副大統領）次第である」と述べた上で、「クリントン氏はあまりにも意見の対立を起こし、余計なもの（たとえば夫であるビル、彼は頑なに彼女の思い通りにさせてはいるが）を持ち過ぎていることが懸念される」との意見を表明した。

以上得た回答は、カリフォルニアの居住者がいかに今回の候補者に期待しているかを執筆者に示すものとなり、彼らが政治に変化を求める理由の一端が伝わってきた。

6. 結び

2008年の民主党予備選挙では、スーパー・チューズデーのあとになっても2人の候補者が勝ちを譲ることはなかった。本文で触れたように、カリフォルニアではフィールド社による最大誤差がプラスマイナス4.5という信憑性のある世論調査（表2）でさえ、実際の投票結果を読み取ることができなかった。またオバマ氏は、カリフォルニアでの資金獲得においてクリントン氏を上回っていたにもかかわらず、敗北した。さらに、オバマ氏は人種の壁を乗り越えようと懸命な努力をしたにもかかわらず、実際にはラティーノ票を揺り動かすことはできなかった。

では、一体なぜクリントン氏がカリフォルニアでオバマ氏に勝利することができたのであろうか。またなぜオバマ氏は、全米で最大の人口を擁する州において力を発揮できなかったのであろうか。スーパー・チューズデーを前に予期せぬ苦戦を強いられながらも、クリントン陣営の選挙戦略は精力的に展開し続けた。クリントン氏は、有権者の心をつかむためのあらゆる努力を怠らなかつた。カリフォルニアでクリントン氏が勝負を決めた理由として、以下の5つの手掛かりが考えられる。

第1に、クリントン陣営の選挙戦略がオバマ氏のそれを上回っていたと考えられる。クリントン氏は、労働組合、女性、そしてラティーノといった組織票を取り込むための計画を緻密に

立てていた。カリフォルニアの選挙担当マネージャーは、州全域に存在する多くのボランティアに対し、携帯電話を用いて有権者への呼びかけを精力的に行なうよう指示を出した。さらに、民主党の予備選挙でクリントン支持者と思しき有権者、特に不在者投票を予定していた人物や女性、ラティーノの有権者に対し、投票日前の週末にかけて200万回、投票日当日の午後5時から8時にかけて100万回以上にわたる電話作戦を展開した。こうした空前の努力が、オバマ氏を10パーセント近く引き離れたクリントン氏の大勝へとつながり、オバマ氏が勝ち馬に乗ることを引き延ばしたのであった⁴⁹⁾。

第2に、クリントン氏は集会において、これまでに培ってきた人脈を生かし積極的に地元の政治家を登壇させた。湾岸地域での最後の集会では、「民主党のお決まりの高官たち」であるファインスタイン (Dianne Feinstein) 上院議員やムニェス (Fabian Núñez) 州議会下院議長、ヴィジャライゴサ (Antonio Villarraigosa) ロサンジェルス市長を率いて演説を行なった。そして自分の考えを具体的かつ明確に述べ、オバマ氏との違いを示した⁵⁰⁾。

第3に、クリントン氏はラティーノ票を獲得することに成功した。カリフォルニア州立大学フラートン校 (California State University Fullerton) で政治学を専門とするソネンシェイン (Raphael Sonenshein) 教授は、「ラティーノのコミュニティや民主党には、ヒラリー・クリントンと言う名前に対してとてもなじみがあり、信頼されたブランドネームとして存在している」と指摘した⁵¹⁾。クリントン陣営の選挙担当マネージャーは、前述のラティーノの大物政治家であるヴィジャライゴサ・ロサンジェルス市長やムニェス州議会下院議長、そして農業労働組合ユナイテッド・ファーム・ワーカー (United Farm Workers) の共同創始者ウエルタ (Dolores Huerta) 氏らからの支持を取り付け、特に12万人あまりに上るラティーノの不在者投票予定者と有権者に対する注意を怠らなかった。

その結果、クリントン氏はかなりのラティーノ票を引き出すことに成功し、ラティーノは同氏に義理を果たし、指導力を期待したのであった⁵²⁾。ラティーノの経済状況から見て、執筆者は特に移民やその子供たちで比較的最近市民権を取得した者を含む少なくとも30パーセントのラティーノ票は、年収が低い市民らによるものであると見ており、彼らがクリントン氏を自分たちの経済的地位を守る保護者として支持したと考える⁵³⁾。

知名度や労働者の味方としての立場、夫の在任中の業績、早期におけるカリフォルニアの著名なラティーノの政治家からの支持の取り付けのほかに、ラティーノがクリントン氏を支持した理由として、アフリカ系アメリカ人とラティーノとの人種間の反目についても注意を払う必要がある。オバマ氏はラティーノ票を獲得しようとしたが、現実にはそれがかなわなかったからである。

また、オバマ氏がラティーノ票を多数獲得できなかった別の理由として、彼の不法移民に対する姿勢が影響を及ぼしているのではないかと考えられる。両候補とも、全米に存在する約1200万人と見積もられる不法移民に合法的な地位を獲得する道を開くという点では一致し、また移民法の施行をより厳格に適用することを要請していた⁵⁴⁾。ただし、前述のようにたとえば不法移民に対する運転免許の発給については意見が分かれ、オバマ氏が公共安全を確保するためには、彼らへの免許の発給、運転の練習、保険が必要であるとしたのに対し、クリントン氏は、ときには「大統領としては、不法移民に対する運転免許の発給を支持しない⁵⁵⁾」と明言した。

一方、ある新聞ではオークランドの約70人からなるラティーノの有権者の意見を紹介し、オバマ氏が選ばれば移民改革を優先課題として取り組むだろうが、クリントン氏は不法移民を資格ある運転手とする上で後退することになると批判しているとの記事を掲載した⁵⁶⁾。しかし、はたして市民権を持つラティーノがオバマ氏の

立場をどこまで支持していたかという点について、執筆者には疑問が残る。彼らの中には、不法移民はあくまでもアメリカ社会に非合法的に存在しており、時には経済上のライバルである不法移民が根付くことを手放しでは賞賛していない者もいるからである。

第4に、今回の民主党予備選挙で女性の有権者が男性を上回ったことも、クリントン氏にとっては好材料となった。ラティーノに関しては、1970年以降、女性の移民が増加しており、これまで伝統的に男性が支配的であったメキシコからの移住者にも女性が多くなった⁵⁷⁾。2008年のカリフォルニアの予備選挙では、ラティーナ(女性のラティーノ)が51パーセント対49パーセントで男性を上回ることが予想されていた⁵⁸⁾。またラティーノの高い投票率は、ラティーノのコミュニティが市民権の獲得を推し進めてきた成果であると言える。すなわち、今回は女性も含めたラティーノの政治参加が進み、クリントン票を押し上げたのである。

さらにその他の要因として、クリントン氏はホームページを開設しただけでなく、電子メールでほぼ連日に亘って登録者に直接メッセージを伝えたことも挙げられる。その際、文頭にはファーストネームを用いて親しみを醸し出し、たとえば「親愛なる真理へ (Dear Mari)」といった具合に、あたかも大統領候補者自身が直接メールを差し出してくれているかのような印象をもたらすことに成功した。一方オバマ氏は、その文頭に「友よ (Friend)」という万人向けの言葉を用いた。クリントン氏からのメールは大変洗練されており、常にアメリカ国旗をモチーフにしたフレームワークが用いられ、時には重要な文章を太字で強調するなど、読みやすいように工夫が施されていた。さらに、ひとたびメールを開くとその最初のページから直ちに献金ができるようになっていた。そして、本文ではしばしば「あなたと私」、「私たち」といった言葉を用い、有権者とともに選挙戦を闘い抜こうとする姿勢が読み取れた。スーパー・チューズデーを前にして、夫であるビル・クリント

ンや娘も、この電子メールを利用して有権者に支持を呼びかけた。ホームページも整っており、争点に対するクリントン氏の考え方が写真とともに順序よく掲載され、ディスカッション・ボードや演説会におけるビデオ映像なども備わっていた。

また、クリントン氏が偶然にも、メディアの前で弱みを見せたことが同情を買ったとする見方もある。選挙期間中、クリントン氏は常に疲れもみせず、気丈に振舞っていた。しかし、カリフォルニアでの予備選挙の前、2008年1月7日、ニューハンプシャー州ポーツマスで彼女が別の側面を見せてから、一部の人々がクリントン氏を見る目が変わったとされる。食堂である女性が「毎日どのようにして家を出るのですか。女性として、家から出たり、家の支度をしたりすることが大変なのではないですか。」との質問をした際、クリントン氏は痛いところを突かれたのか、質問にはまともに答えず、テーブルに肘をついたまま急に口をつぐみ、目頭を熱くした。これが、選挙期間中にクリントン氏が公に見せた唯一のもろさであった⁵⁹⁾。はたしてこの一件がどのように票に左右したのかは不明であるが、これまで初の女性大統領候補者として、非の打ち所がなかったからこそクリントン氏に反感を持っていた女性のなかには、心を動かされた有権者がいたことも事実である。

結論として、クリントン氏はカリフォルニアでの選挙運動中、決して弱音を吐かず、常に前向きで強気の姿勢を見せ、組織力を生かした抜け目ない選挙戦略を展開したことが、オバマ氏を打破した最大の要因となった。しかし、その後も両者による一騎打ちは続き、5月11日にはそれまでクリントン氏が優位を保っていたスーパーデリゲイトと呼ばれる代議員の獲得数(2008年1月初旬には100人以上の差をつけていた)でオバマ氏に追いつかれ、それ以降オバマ氏の優位が確立していった⁶⁰⁾。

ところで、2008年の予備選挙において、カリフォルニアは大きな役割を果たしたと言えるのであろうか。あるメディアは、カリフォルニア

での予備選挙はここ何十年間で初めて本当の意味で大統領指名過程に参加しているという実感を与えてくれたと指摘したが、同時に、あと知恵をもってすれば、前回同様カリフォルニアが3月上旬に予備選挙を行なっていれば、別の意味で重要な役割を果たせたのではないかと論評した⁶¹⁾。

しかし、全ての観点から判断して、近年にない高い投票率に象徴されるように、少なくともカリフォルニアの有権者は自らの役割を果たそうと高い期待を持って投票に臨むことができた。また、プエルトリコを含む全ての州に対して候補者、メディア、そして有権者が関心を注ぎ、最後まで目が離せない戦いとなった。しかし、候補者にとって今回の選挙は、接戦を続ける一方で、たとえカリフォルニアやニューヨークなどの大票田を制しても党の大統領候補者に指名されることのない、過酷なものとなった。以上のことから、人口の多い州だけに片寄った選挙運動や資金に物を言わせる選挙戦略に、今後変化が生じる可能性をはらんだ選挙であったと考えられる。

最近の調査では、ラティーノの有権者、特に若年層の有権者が着実に増加していることがわかっていく。彼らのうち、37パーセントが19歳以下に属する⁶²⁾。人口調査の専門家は、カリフォルニアで最大の合法移民であるラティーノのうち、3人に2人が12歳から17歳の移民家族の子供たちであること、有権者の予備軍たちは移民の融合を促進する政策に同調するであろうと指摘する⁶³⁾。政治家たちは、もはやラティーノを視野に入れないで選挙戦に勝利することは、難しくなったと言えよう。

民主党の予備選挙が6月6日に終了すると、元副大統領で今回の選挙に非公式に担ぎ上げられていたゴア (Al Gore) 氏は、オバマ氏を支持すると同日18日に表明した。クリントン氏とオバマ氏は6月27日に、民主党内の統一を呼びかける集会を行なった。その直後から、46歳の民主党オバマ大統領候補と71歳の共和党マケイン大統領候補との間で、早くも若者とマイノリ

ティ票を意識した戦いが各党の全国党大会を前にスタートした。6月28日には両者がラティーノ票を意識して、全米ラティーノ選挙任命協会 (National Association of Latino Elected and Appointed Officials) で移民問題などについて演説した。その席で、オバマ氏はイラク問題に対するマケイン氏の政策を批判すると、マケイン氏はオバマ氏が状況を理解していないと非難した。オバマ氏は予備選挙後、中道寄りに立場を変え、より幅の広い有権者の獲得に乗り出したのであった⁶⁴⁾。

付記 本稿は、阪南大学学会『阪南論集』社会科学編、第44巻第2号 (2009年3月刊行)

“The 2008 California Presidential Primary Election: Focus on the Democratic Party and the Latino Vote”を加除修正し、日本語にしたものである。

2008年8月10日脱稿、2009年7月10日原稿提出

注

- 1) 「予備選挙 (Primary)」という用語は、大統領予備選挙以外にも、州や地方の政治家、役人を選出する際の選挙にも使用する。本論文では、今後特筆しない限り、「予備選挙」を大統領予備選挙の意味で使用することとする。
- 2) バラク・オバマ氏は、1961年8月4日、ハワイ州生まれ。コロンビア大学で国際関係の修士 (BA) を取得後、アフリカ系アメリカ人では初めて『ハーバード・ロー・レビュー (The *Harvard Law Review*)』の主幹となる。イリノイ州議会上院議員を7年間務めた後、2004年11月2日、イリノイ選出の連邦上院議員になる。雑誌『タイム (The *Time*)』は、2005年に世界で最も影響力のある人物のひとりに彼を選んだ。父はケニアで生まれ、ハーバード大学 (Harvard University) で教育を受けた経済学者、母は白人の文化人類学者である (Barack Obama, *Dreams from My Father: A Story of Race and Inheritance*, New York, Three Rivers Press, 2004, pp. vii - viii ; Meet the Candidate, <http://www.barackobama.com/learn/>

meet_barack.php, February 5, 2008; Barack Obama's profile, <http://www.ndtv.com/convergence/ndtv/popups/obamaprofile.asp>, July 10, 2008).

ヒラリー・クリントン氏は、1947年10月26日、イリノイ州生まれ。ウェルズリー・カレッジ (Wellesley College) を卒業後、ハーバード大学のあるロースクールの教授に「女性は必要としない」と言われたことがきっかけで同校を選択せず、イエール大学ロースクール (Yale Law School) に進学。同校を1973年に卒業後、弁護士としての仕事をはじめ。その後アーカンソーに移り住み、1975年にビル・クリントン氏と結婚。1988年と1991年には全米で最も影響力のある100人の弁護士のうちのひとりに選ばれた。1979年から81年、1983年から92年まで、アーカンソー州知事夫人となり、1993年から2001年まではアメリカ合衆国大統領夫人となる。その後ニューヨークに移り住み、2000年と2006年には連邦上院議員に選出された (Hillary Rodham Clinton, *Living History*, New York: Scribner, 2003, pp.2, 57; Hillary Clinton's Profile, <http://www.ndtv.com/convergence/ndtv/popups/hillaryprofile.asp>, July 10, 2008)。

- 3) United States presidential election, 2008 (http://en.wikipedia.org/wiki/U.S._presidential_election,_2008, July 8, 2008).
- 4) 民主党予備選挙の投票率は、マケイン氏が指名を確実にした3月4日までに、全米6州をのぞき共和党のそれを上回った。例外の6州とは、マケイン氏の選挙地盤であるアリゾナ、民主党の予備選挙が無効とされたフロリダとミシガン、そして伝統的な共和党の地盤であるアラバマ、アラスカ、ユタである (Democratic Party (United States) presidential primaries, 2008, [http://en.wikipedia.org/wiki/Democratic_Party_\(United_States\)_presidential_primaries,_2008#Candidates_and_results](http://en.wikipedia.org/wiki/Democratic_Party_(United_States)_presidential_primaries,_2008#Candidates_and_results), June 6, 2008)。
- 5) 執筆者は2月5日にカリフォルニア州ロサンゼルスにある2ヶ所の投票所 (University Cooperative Housing Association Hardman-

Hansen Hall at 500 Landfair, Los Angeles and Christ-Centered Fraternity at 515 Landfair, Los Angeles) で調査およびインタビューを行なったほか、投票日前後にアンケートを実施した。詳細は第4章(1)および第5章を参照。

- 6) Los Angeles County, Registrar-Recorder/County Clerk, Calendar of Events, Presidential Primary Election, February 5, 2008 (http://www.lavote.net/Voter/PDFS/CALENDAR_EVENTS/02052008.pdf, June 6, 2008).
 - 7) カリフォルニアでは、2001年に州議会によって有権者登録の期限が、それまでの選挙29日前から15日前に変更された (Historical Voter Registration and Voter Participation in Statewide Primary Elections: 1910-2008, Secretary of State in California Debra Bowen (http://www.sos.ca.gov/elections/sov/2008_primary/106_historical_voter_res_primary_feb08.pdf, May 9, 2008).
 - 8) Secretary of State Debra Bowen, *California Presidential Primary Election, Official Voter Information Guide* (Sacramento, California: Secretary of State, December 13, 2007), pp.5-6.
 - 9) Fact Sheet, Governor Elevates California's Influence in the 2008 Presidential Election, Setting Stage for Broader Political Reforms, Office of the Governor (<http://www.gov.ca.gov/index.php?/fact-sheet/5646/>, July 10, 2008).
- 2004年の選挙では、マサチューセッツ州選出のケリー上院議員が、同年1月のアイオワでの党員集会、ニューハンプシャーでの予備選挙での勝利後、支持率を8パーセントから58パーセントへと急浮上させた。ケリー氏は2003年1月の時点では3番手に甘んじていた (Samuel Kernell and Gary C. Jacobson, *The Logic of American Politics*, third edition, Washington D.C.: CQ Press, 2006, pp.11, 488).
- 10) Finally, California's presidential primary count (http://www.mercurynews.com/localnews/headlines/ci_8155851, July 10, 2008).
 - 11) Historical Voter Registration and Voter

Oct. 2009

2008年カリフォルニア州における大統領予備選挙をめぐる一考察

- Participation in Statewide Primary Elections—1910-2008, Secretary of State Bowen (http://www.sos.ca.gov/elections/sov/2008_primary/106_historical_voter_res_primary_feb08.pdf, May 9, 2008).
- 12) Press Release, Governor Schwarzenegger's Press Secretary Issues Statement Regarding California's Presidential Primary, Office of the Governor, February 7, 2007 (<http://www.gov.ca.gov/index.php?/print-version/press-release/5382/>, June 22, 2008).
- 13) Press Release, Governor Schwarzenegger Signs to Move California's Presidential Primary to February, Office of the Governor, March 15, 2007 (<http://www.gov.ca.gov/index.php?/print-version/press-release/5649/>, June 22, 2008) ; Governor Elevates California's Influence in the 2008 Presidential Election, Setting Stage for Broader Political Reforms, Fact Sheet, Office of the Governor, n.d. (<http://www.gov.ca.gov/index.php?/fact-sheet/5646/>, June 22, 2008).
- 14) Kenneth Janda, Jeffrey M. Berry and Jerry Goldman, *The Challenge of Democracy: Government in America*, 9th ed. (Boston and New York: Houghton Mifflin Company, 2008), p.269. ニューハンプシャーでの予備選挙が2008年1月8日に移動したのは、州法によって少なくとも他の予備選挙より1週間前に投票を行わなければならないとする規定があり、ミシガン州が日程を前倒しにしたため、それよりも早く開催する必要があったからである (Election 2008, primary calendar: Democratic nominating contests, *The New York Times*, June 6, 2008, <http://politics.nytimes.com/election-guide/2008/primaries/democraticprimaries/index.html>, June 6, 2008).
- 15) 代議員の定義は以下の資料に依拠した。The definitions on the delegates are followed by delegate dance delegate dance (*The San Francisco Chronicle*, February 7, 2008, A1) ; California: Super Tuesday's big prize (*The Los Angeles Times*, February 1, 2008, B2).
- 16) Democratic Party (United States) presidential primaries, 2008. 民主党全国委員会 (The Democratic National Committee: 以下 DNC) は、地域とエスニシティのバランスに配慮し、ネヴァダとサウスカロライナの予備選挙を1月に移動することを認めた (Election 2008, primary calendar, *The New York Times*, <http://politics.nytimes.com/election-guide/2008/primaries/democraticprimaries/index.html>, June 6, 2008)。
- しかし、フロリダ州議会はDNCの規定に反し、2007年5月に独自に予備選挙の日程を可決したため、DNCは民主党全国大会に同州の代議員を出席させない決定を下した。DNCを相手に連邦訴訟が起こされたが、成功しなかった。そこで大統領候補者たちはフロリダで選挙運動を行わないことにしたが、予備選挙は実施された。一方ミシガン州でも、党のルールに反し、予備選挙を2008年1月15日とすることに決めた。DNCは、予備選挙によって配分される同州の代議員を考慮しないことにした。こうした決定にもかかわらず、ミシガン州ではクリントン氏と一部の候補者だけによる予備選挙が行なわれた。
- 両州ともに投票率は比較的低かったものの、クリントン氏は両州における勝利を主張した。その後DNCと各州の党組織との十分な交渉が行なわれた末、一部の候補に不利な状況であったにもかかわらず、DNCの規約内規委員会は最終的に全会一致 (27対0) で、スーパーデリゲイトを含むフロリダの全ての代議員の半数を、ミシガンでも代議員の半数を復活させると同年5月31日発表した (Democratic Party (United States) presidential primaries, 2008)。
- 17) 2008 National Democratic Delegate Overview, The California Democratic Party (<http://www.cadem.org/site/c.jrLZK2PyHmF/b.3643973>, May 29, 2008) ; Press Release, Governor Schwarzenegger's Press Secretary Issues Statement Regarding California's Presidential Primary, Office of the Governor. 代議員は、アフーマティヴ・アクションの目標を満たすため、

- ラティーノ26パーセント、アフリカ系アメリカ人16パーセント、アジア系および太平洋諸島の人々9パーセント、ネイティヴ・アメリカン1パーセント、そして30歳以下の若者10パーセント、といった具合に選抜されることになっていた。
- 18) 2008 National Democratic Delegate Overview, The California Democratic Party.
- 19) 2008年2月1日、テッド・ケネディ氏はイースト・ロサンジェルス・コミュニティ・カレッジ (East Los Angeles Community College) におけるオバマ氏の集会に現れたが、そこはかつて兄である故ロバート・ケネディ (Robert Kennedy) 氏と家族がラティーノの農夫とともに仕事をしたことを思い起こさせる場所であった (Clinton has roots with Latinos, *The Los Angeles Times*, February 2, 2008, A14)。テッド・ケネディ氏は、ほぼ全ての不法移民に合法的な地位を付与する道を切り開くための移民改革法案を起草したことでも知られ、このことは多くのラティーノの有権者にとっても重要な問題であった (Dems vie for Latino voters in California, *The San Francisco Chronicle*, February 1, 2008, A15)。
- 20) Statement is the epicenter of Dems' epic day at polls, *The San Francisco Chronicle*, February 4, 2008, A1, 6; Obama's surprise endorser, *The Sacramento Bee*, February 4, 2008, A1, 14.
- 21) Rally with Hillary Clinton, Hillary for President (<http://hillaryclinton.com/actioncenter/event/view/?id=7983>, February 1, 2008) ; State is epicenter of Dems' epic day, *The San Francisco Chronicle*, February 4, 2008, A6.
- 22) News Room (<http://www.hillaryclinton.com/news/>, February 5, 2008).
- 23) A friendlier feud, *The Sacramento Bee*, February 1, 2008, A1, 14; Clinton has roots with Latinos, *The Los Angeles Times*.
- 24) Dems' debate is virtual lovefest, *The San Francisco Chronicle*, February 1, 2008, A1.
- 25) Kim Geron, *Latino Political Power* (Boulder, Colorado: Lynne Rienner Publishing, 2005), p.98.
- 26) The Battle for Latino Vote, *The Time*, February 1, 2008 (<http://www.time.com/time/politics/article/0,8599,1709033,00.html>, July 25, 2008).
- 27) Dems battle over Latino voters, *The San Francisco Chronicle*, February 1, 2008, A15.
- 28) Generaciones de Kennedys respaldan a Barack Obama para Presidente, *La Opinión*, February 3, 5A. 実際のところ、ケネディ家の中でも、大統領候補者に対する支持動向は異なる (Kennedy clan endorsements: a house divides, *The Los Angeles Times*, February 8, 2008, A18)。
- 29) ¡Votar es muy fácil!, *La Opinión*, February 3, 2008, 8A.
- 30) Nuestras recomendaciones—Partido Demócrata: Barack Obama, *La Opinión*, February 3, 2008, 10A.
- 31) The Battle for Latino Vote, *The Time*.
- 32) California Polls—2008 Primary Presidential Election Results Exit Poll (<http://www.presidentpolls2008.com/primary-election-poll-results/california-democratic-republican-polls.html>, July 3, 2008). カリフォルニアでは、民主党だけでなく共和党においても事前の予測が難しかった。2008年2月1日以降に行なわれた9つのうち6つの世論調査では、ロムニー (Mitt Romney) マサチューセッツ州前知事のリードという結果が出ていた。一方、2008年2月2日に公表された798人の民主党有権者を対象とするラスムッセン・レポート (Rasmussen Reports) では、45パーセントと44パーセントという僅差ながら、オバマ氏が優勢との結果が出ていた (Election 2008:California democratic Presidential Primary, February 3, 2008, http://www.rasmussenreports.com/public_content/politics/election_20082/2008_presidential_election/california/election_2008_california_democratic_presidential_primary, June 6, 2008)。
- 33) 2006年のカリフォルニア州における人種およびエスニック分布は、白人42.8パーセント、ラティーノ35.9パーセント、アジア系12.1パーセント、アフリカ系アメリカ人6.0パーセント、ネイティヴ・アメリカン0.5パーセント、その他2.7パーセント。

Oct. 2009

2008年カリフォルニア州における大統領予備選挙をめぐる一考察

- ントとなっている (California: Super Tuesday's big prize, *The Los Angeles Times*)。
- 34) カリフォルニア以外の州では、1ないし2種類の身分証の提示を求める州もある。
- 35) Democrat results, *The USA Today*, February 7, 2008, 10A. 予備選挙終了翌日の新聞には、「クリントン、オバマが分裂した結果に—マケインは主要な州を手中に (Split decision for Clinton, Obama; McCain takes major states handily)」(*The Los Angeles Times*, February 6, 2008, A 1), 「カリフォルニアはクリントン、マケインになびく (California swings to Clinton, McCain)」(*The Daily News*, February 6, 2008, A1), そして「マケインは主要な州で勝利—クリントン、オバマは選挙戦を継続 (McCain wins key states; Clinton, Obama fight on)」(*The USA Today*, February 6, 2008, 1A) といった見出しが躍った。
- 36) Latino Voters in California, *Just the Facts*, Public Policy Institute of California, September 2007 (http://www.ppic.org/content/pubs/jtf/jtf_latinovotersjtf.pdf, July 24, 2008).
- 37) Democratic Party (United State) presidential primaries, 2008. 共和党候補者の結果は、マケイン氏が42パーセント (98万5900票), ロムニー氏が34パーセント (80万1568票), そしてハカビー (Mike Huckabee) 氏が12パーセント (27万2638票)であった (President, *The Daily News*, February 7, 2008, A10)。
- 38) Latinos irrumpen en arena política, *La Opinión*, February 6, 2008, 12A.
- 39) 民主党に登録をしたラティーノの割合は、2007年に57パーセントに増加し、共和党は23パーセントに減少した (Latino voters, *The Los Angeles Times*, February 2, 2008, A14)。
- 40) Party affiliation, NALEO Educational Fund, n.d., quoted in *The San Francisco Chronicle*, February 1, 2008, A15.
- 41) Latinos irrumpen en arena política, *La Opinión*, February 6, 2008, 1A; Se despierta 'el gigante dormido,' *La Opinión*, February 7, 2008, 1A, 8A; Super Tuesday a watershed for Latino voters, *The Los Angeles Times*, February 7, 2008, A12.
- 42) The Battle for the Latino Vote, *The Time*.
- 43) Janda, Berry and Goldman, *The Challenge of Democracy*, p.281. オバマ氏のホームページによれば、個人の献金限度額は選挙ごとに2300ドルで、予備選挙と一般選挙は別々に扱われることになっていた (The Official Online Store for Barack Obama for President Campaign, <http://store.barackobama.com/>, February 5, 2008)。
- 44) Where the money goes, *The Los Angeles Times*, February 8, 2008, A18.
- 45) Race towards the \$1bn presidency (*The Financial Times*, February 2/3, 2008, p.2).
- 46) The finance primaries and caucuses: California Democratic Party, campaign finance, *The Washington Post* (Archives; <http://projects.washingtonpost.com/2008-presidential-candidates/primaries/states/ca/d/>, July 8, 2008).
- 47) Clinton camp tries to fill money gap, *The Los Angeles Times*, February 7, 2008, A16.
- 48) 執筆者は2008年2月3日から28日にかけて、UCLA と UCLA ティヴェルトンハウス (UCLA Tiverton House), および電子メールを利用してアンケートを実施した。協力を受諾した15人の有権者のうち、13人が民主党、2人が共和党の支持者であった。性別では8人が女性、共和党支持者2人を含む7人が男性であった。今回は、民主党支持者による回答のみを利用することとする。
- 49) Millions of cell calls for Clinton, *The San Francisco Chronicle*, February 7, 2008, A12.
- 50) Crowds cheer Clinton in San Jose as she calls California 'the future', *The San Francisco Chronicle*, February 1, 2008, A6.
- 51) Super Tuesday a watershed for Latino voters, *The Los Angeles Times*, February 7, 2008, A12.
- 52) Ibid. クリントン氏は不在者投票において、約20パーセントの差をつけてオバマ氏より優位に立っていた。さらに出口調査によれば、ラティーノ票でも2対1の割合でリードした。
- 53) Latino Voters in California, *Just the Facts*によれば、

- ラティーノの有権者の36パーセントは、年収が4万ドル以下である。またウエルタ氏は、長年農業労働組合運動を展開してきたチャベス(Cesar Chavez)氏と共に歩んだ人物である(Clinton has roots with Latinos, *The Los Angeles Times*, A18)。
- 54) Dems vie for Latino voters in California, *The San Francisco Chronicle*, February 1, 2008, A15.
- 55) Driver's licenses for undocumented immigrants, *The Sacramento Bee*, January 28, 2008, A15.
- 56) Dems vie for Latino voters in California, *The San Francisco Chronicle*.
- 57) Saskia Sassen, *Globalization and its Discontents* (New York: The New York Press, 1998), p.36.
- 58) Latino Voters in California, *Just the Facts*.
- 59) Hillary tears up?: A muskie moment, or a helpful glimpse of 'the real Hillary?' *The Newsweek*, January 7, 2008 (<http://www.newsweek.com/id/85609>, June 29, 2008).
- 60) 「オバマ氏がカリフォルニアのスーパーデリゲイトであるストレート(Crystal Strait)氏から支持された」と伝えられた(CNN reported on May 11, 2008)。カリフォルニアの予備選挙で勝利を取めたクリントン氏が、カリフォルニアのスーパーデリゲイトによって転機をもたらされたのは皮肉なことである。
- 61) Parting thoughts on Super Tuesday, *The Los Angeles Times*, February 8, 2008, A18.
- 62) U.S. Census Bureau, *Current Population Survey, Annual Social and Economic Supplement, 2006*, Ethnicity and Ancestry Statistic Branch, Population Division (Internet release date is October 5, 2007) (http://www.census.gov/population/socdemo/hispanic/cps2006_tabl.2a.xls, June 28, 2008).
- 63) New wave of voters forecast, *The Sacramento Bee*, April 29, 2008, A1.
- 64) 予備選挙の間、候補者たちは互いの政策の違いを強調するが、本選挙に向けてより多くの票を得るために軌道修正を図ろうとする傾向にある。たとえばオバマ氏は2008年6月、かつては銃規制を支持していたにもかかわらず、首都ワシントンにおける銃規制を覆した最高裁判決を支持した(Obama supports supreme court reversal of gun ban, *The Guardian*, June 27, 2008, <http://www.guardian.co.uk/world/2008/jun/27/barackobama.usa>, July 10, 2008)。「より多くの有権者の獲得を標榜するバラク・オバマ氏は、重要問題に関する立場において、たとえ保守派であっても中道であることを強調している」と報じられた(Obama is shifting to the center, *The Los Angeles Times*, June 28, 2008, A1)。

(2009年8月6日掲載決定)